

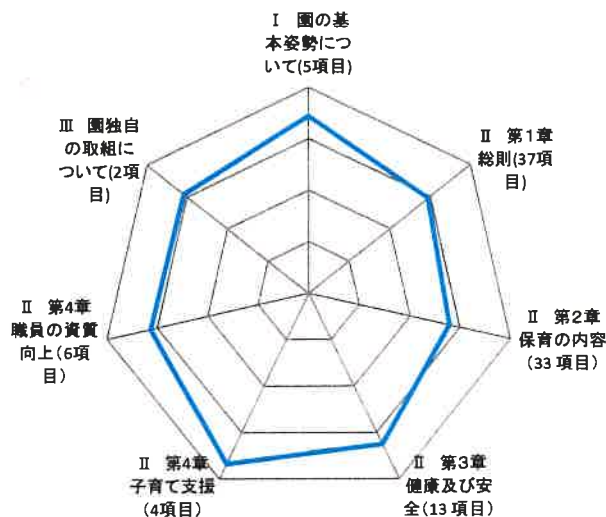
当園では、保育者一人ひとり、また保育園全体の質の向上を図るため自己評価を実施しました。

<評価方法>

十分理解できている(十分できている)…◎3点 理解している(できている)…○2点 ふつう…▲1点 努力が必要…×0点

集計結果

回答人数	9人			
	2020年6月実施			
評価	◎	○	▲	×
I 園の基本姿勢について(5項目)	22	16	5	1
II 第1章 総則(37項目)	121	111	69	22
第2章 保育の内容(33項目)	91	105	69	14
第3章 健康及び安全(13項目)	39	54	28	11
第4章 子育て支援(4項目)	13	20	9	3
第5章 職員の資質向上(6項目)	20	22	9	1
III 園独自の取組について(2項目)	3	14	0	1



《自己評価総評(気づき・振り返り・改善点等)》

- 自己評価の振り返りをする中で、自分の未熟な部分や理解が足りていない部分があり、保育を見つめ直すよいきっかけになった。また、情緒の安定を図りながら自発的活動を支援し、今まで以上に子どもたちの自己肯定感を高める努力が必要だと改めて感じた。
- 子どもたちが日々成長できるような保育内容にするために、今の子どもたちには何が必要なのかをよく考え、遊びや製作活動などを工夫して取り入れていきたい。
- 前年度の改善点であった「異年齢交流」を意識して保育するように心がけた。年下の友だちの関わり方を子どもたち同士で考え合ったり、保育者が仲介したりと交流の幅に広がりを感じた。優しい気持ちが持てるようになり、一人ひとりのよい面が再認識できたので、これからも異年齢での交流を取り入れた保育を心がけたい。
- 散歩時など地域の方と出会った際に、保育者が挨拶をすることを心がけたことで、子どもたちが自然と挨拶する姿が見られた。保育者の姿が子どもたちに反映するので、今後も責任のある行動・言動を意識していきたい。
- 離乳食の進みが一人ひとり異なるので担任間で話し合いをしながら進め、間違いが起こらないように指差し確認をしたり、アレルギー事故が起こらないよう安全に配慮し、担任同士で協力し合いながら行った。
- あまり多くを語らない保護者に対して積極的に話しかけられなかったことがあり、家庭での子どもの様子など、気兼ねなく話してもらえるような関係を築いていく努力が必要だと思う。
- 保護者のニーズは様々で理解が難しいこともあるが、どんな保護者にも誠意を持った対応をし、信頼関係を築いていくことが大切だと感じた。
- 危険を防ぐために「たぶん、大丈夫だろう。前からやっているから大丈夫だろう」というような主義的な発想をなくし、常に危機に対する早期発見、早期対応を心がけ未然防止に努める。
- 職員間での連携を図りながら、子どもたちの様子を伝え合い、悩みを相談するなど話し合うことができた。今後も職員同士が情報共有できる環境作りに努めていきたい。